

## 「宇部市の文化芸術に関する市民アンケート」調査結果まとめ

### ○文化芸術活動への意識、取組について

- ・文化芸術活動の重要性については、6割を超える人が重要と感じている（問8）が、実際の活動状況については、直接的活動等については過去も含めて約3割（問9）、鑑賞活動については過去一年で約半数（問15）にとどまり、意識と行動にギャップがあると言える。
- ・直接的活動等の内容については生活文化（華道、書道、手芸、茶道など）を挙げる人が多く、鑑賞については絵画、クラシック音楽、映画が主なところであり、活動の具体的な内容としては、身近なジャンルで取り組まれていると言える。

### ○文化芸術に対する評価、関心について

- ・宇部市の文化状況については、「文化的なまち」か否かということについて、評価が相半ばしている（問5）。文化性を肯定するポイントとして、約8割の人が「彫刻の設置等、まちかどで身近に芸術に触れることができる配慮がなされている」をあげている（問6）。また、自由記述意見においても、賛否両論はあるが、彫刻事業は市民意識において幅広く定着していると言える。
- ・一方、本市の文化性を否定する要因としては、「良質な文化・芸術イベントの開催が少ない」、「まちなみや景観、施設の外観などが、文化的な雰囲気を感じさせない」、「名所・旧跡などの見所が少ない」が挙げられている（問7）。
- ・文化施設への満足度については、満足・不満がほぼ同数である（問20）。不満の理由としては、「本格的な美術館、博物館がない」が過半数を占め（問21）、美術館・博物館を望む声が多いと考えられる。
- ・本市文化芸術の拠点であり、シンボルでもある、渡辺翁記念会館については、整備・保存と一層の活用を望む声がある一方、新施設への更新、改廃の意見もあった〈自由記述意見〉。
- ・情報の取得状況については、得やすいという意見が過半数である（問24）が、発信する情報内容の充実を望む声も多い（「その他」意見、自由記述意見）。情報源としては、市広報をあげる人が多く、地域情報紙、テレビ・ラジオ、チラシ・ポスター等が3割前後で、インターネットを上げる人は少ない（問23）。

## ○今後の方向性について

- ・市の役割としては、良質な文化芸術イベントの開催を望む声が特に多く、環境整備に関する諸施策がこれに次いでいる（問 26）。
- ・市民の役割としても、イベントの誘致開催、情報発信等イベント開催に関するものが多いが、「子どもたちへ文化芸術活動を伝える教室等の開催」も3割を超え、青少年育成の大切さへの意識が感じられる（問 27）。
- ・子どもの人材育成推進への取組については、さまざまな事業の実施や一流の芸術家の作品等に触れる機会の提供がそれぞれ約半数と多数を占め、幼少期から優れた芸術に触れさせたいとの意識が高い。

### 宇部市民の意識の総括

文化そのものは、生活する上で重要なものとは思いますが、自らが実際に具体的に活動するには、時間的・経済的・精神的に余裕がない。

しかしながら、彫刻がまちを飾り、独自のまちの景観を醸し出していることに関心はあり、良質なイベントの開催も望んでいる。

また、特に子ども達には、一流の芸術に触れさせる機会の充実も大切であると考えている。

このような市民像から、**市民自らが文化に関心と興味を持ち、そして実際に取り組むような働きかけや意識の啓発、人材の育成などをどのように進めていくか、**ということが課題として浮き彫りになったのではと考える。